



News Letter

一般社団法人日本老年歯科医学会 会報

2019年6月30日発行

【本号のトピックス】

第30回学術大会報告／第31回学術大会のご案内／
認定制度の改正について／国際渉外だより／共催シンポジウム報告／
委員会だより／研究倫理の啓発⑥／支部だより／学会だより

日本老年歯科医学会第30回学術大会が盛会裡に終了！

第30回学術大会準備委員長 山口哲史

2019年6月6日(木)から8日(土)の3日間、仙台国際センターにおいて第30回日本老年歯科医学会学術大会が開催されました。2つの特別講演をはじめ、教育講演2演題、シンポジウム9演題、課題口演10演題、一般口演63演題、優秀ポスター発表15演題、一般ポスター発表158演題という大変充実した内容となりました。また、今回は日本老年学会総会として7学会が同時開催され、合同シンポジウムや合同ポスターセッションでも、他職種の参加者に対して歯科の存在感を示すことができました。

特別講演1では、「The oral situation of German seniors from an epidemiological perspective」というタイトルで、Thomas Kocher先生(University medicine Greifswald)にご講演いただきました。ドイツと日本というヨーロッパとアジアを代表する先進工業国の口腔保健は「似て非なるものであるのでは」というKocher先生の講演は、非常に説得力があって興味深いものでした。そしてその差異の要因は、歯科衛生士数に示される口腔疾患予防に重点を置くか否かという国の施策の違いでは

ないかと考えさせられました。特別講演2では、「がん治療における口腔管理の重要性」というタイトルで、照沼裕先生(医療法人財団健貢会東京クリニック/(株)日本バイオセラピー研究所)にご講演いただきました。腫瘍内科をご専門とする照沼先生の診察を希望される患者さんの多くが定期的に歯科を受診しておらず、口腔管理がなされていない現状にびっくりすると言われます。がんと戦う免疫力が歯周病をはじめとする口腔感染症のために消耗しきっていることに警鐘を鳴らされました。2人に1人が「がん」に罹患するわが国の状況において、われわれ口腔の専門職はもっと大きな声で定期的な口腔管理の重要性を国民に発信すべきであり、医科歯科連携の大切さを考えさせられた講演でした。

日程の後半は雨天となってしまいましたが、最終的に約1,800人の方々にご参加いただきました。誠にありがとうございました。

最後になりましたが、ご参加、ご協力いただきました先生方に厚く御礼申し上げますとともに、会場の移動などでご不便をおかけしましたことをお詫び申し上げます。



Thomas Kocher先生と佐藤理事長



照沼先生と米山大会長



合同シンポジウム5「栄養・食べる力」



シンポジウム1「『口腔機能低下症』のこれから」



指定シンポジウム2「支部組織・地域保健医療福祉委員会主催シンポジウム」



懇親会での一コマ

日本老年歯科医学会第30回学術大会・シンポジウム開催報告

※学術大会でのシンポジウムの一部の内容をご紹介します。

【合同シンポジウム5「栄養・食べる力」開催報告】

日本基礎老化学会、日本老年歯科医学会、日本老年看護学会、日本ケアマネジメント学会からそれぞれ演者が登壇し、標題の演題について各自発表を行い、一部討論も行いました。

座長もお務めいただいた樋上賀一先生からは、基礎の立場から、長期の摂取カロリーの制限（CR）は、代謝を改善し、様々な加齢変化を抑制、寿命を延伸するといった内容を詳細なデータに基づき発表いただきました。菊谷は、加齢とともに低下する口腔機能の紹介とサルコペニアによる嚥下障害について報告を行いました。山田律子先生からは、認知症高齢者で高率にみられるサルコペニアの実態と認知症高齢者にみられる摂食嚥下障害について紹介いただきました。さらに、利波美也子先生からは、介護支援専門員かつ管理栄養士の立場より、豊富な介護現場の経験から高齢者にとって食べることの意義について語っていただきました。（菊谷 武）

【シンポジウム1「『口腔機能低下症』のこれから」開催報告】

「口腔機能低下症」が2018年4月にC、P、MTに続く歯科独自の病名として保険収載されました。約1年が

経過いたしました。まだまだ十分に浸透しているとはいえないところですが、今回のシンポジウムは「口腔機能低下症」が保険収載されたことの影響を厚生労働省の小嶺祐子先生に、各診断基準の問題点を池邊一典先生に、そして渡邊 裕先生には口腔機能管理の効果や今後行うべきこと、そして竹内周平先生に在宅診療の現場でどのように「口腔機能低下症」が適用されているのかについてお話しいただきました。これからも学術委員会は「口腔機能低下症」のブラッシュアップに邁進いたします。（水口俊介）

【指定シンポジウム2「支部組織・地域保健医療福祉委員会主催シンポジウム」開催報告】

大会3日目、「歯科医師認知症対応力向上研修をどう活かすか」をテーマに、シンポジウムが開催されました。羽根司人先生（日本歯科医師会）からは認知症対応力向上研修後のアンケート結果から得られた課題について、赤穂和広先生（青森県歯科医師会）、川端貴美子先生（福岡県歯科医師会）からは、各都道府県歯科医師会における具体的な取り組み事例についてご講演をいただきました。講演後のディスカッションでも活発な討論が行われ、大変に有意義なシンポジウムとなりました。（平野浩彦）

2019年度各賞受賞者紹介

【功労賞】

小正 裕（大歯大・名誉教授）

野村修一（新潟大・名誉教授）

【優秀奨励論文賞（ライオンアワード）】

岩崎正則（九歯大・地域健康開発歯学分野）

三原佑介（大阪大・有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野）

【優秀課題口演賞】

五十嵐公美（日歯大・臨床口腔機能学）

福武元良（大阪大・有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野）

【優秀ポスター賞】

丸岡三紗（まんのう町国民健康保険造田歯科診療所）

木村年秀（まんのう町国民健康保険造田歯科診療所）

星野大地（昭和大・地域連携歯科学部門）

受賞した先生方、おめでとうございます。



2019年度老年歯科医学研究助成対象研究紹介

老年歯科医学における基礎、臨床、疫学研究において、新知見の得られる可能性をもつ革新的な研究プロジェクトの発展促進を図ることを目的として、2018年度より老年歯科医学研究助成制度がスタートいたしました。

会員より多くの研究課題を提案いただき、2019～2020年度助成対象研究を2件決定いたしました。

研究成果を大いに期待しております。

・代表研究者：皆木 瞳（大阪大・顎口腔機能治療学教室）

「口渇症状の出現に関与する因子の解明

—ドライマウス外来での大規模調査から—」

・代表研究者：奥野健太郎（大歯大・高齢者歯科学講座）

「口腔サルコペニアの診断方法の確立」



左から奥野先生、佐藤理事長、皆木先生

一般社団法人日本老年歯科医学会 第31回学術大会 (学会設立30周年記念大会)のご案内

大会長 水口俊介
(東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野)

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1
TEL: 045-221-2155

仙台での第30回学術大会、お疲れ様でした。熱気にあふれたすばらしい大会でした。大会長の米山先生、実行委員長の服部先生をはじめ、作り上げてくださったすべての方々に感謝申し上げます。

さて、次はいよいよ来年の学会設立30周年記念大会です。「健康長寿を支える老年歯科の誇りと決意」をテーマといたします。これまでの30年の学会の歩みを誇りに思い、これからの30年の貢献を決意する。そんな学会にしたいと思っています。会場は来年4月に完成なのでまだできてはいませんが、必ず実施できると確信しております。皆様、誇りと決意を胸にお集まりください。

テーマ：健康長寿を支える老年歯科の誇りと決意
会期：2020年6月19日(金)、20日(土)、21日(日)
会場：パシフィコ横浜 ノース



日本老年歯科医学会認定制度の改正について

認定制度委員会委員長 大野友久

日本老年歯科医学会では理事会の承認を得て、2019年6月に認定制度規則の改正を行いました。

今までの制度では

①認定医→認定医制度指導医

②専門医→専門医制度指導医

の2つの指導医があり、さらにそれぞれに応じた認定医研修機関、専門医研修機関がありました。

しかし、複雑でわかりにくい

認定医→専門医→指導医

の順で一本化し、研修機関も1つにまとめました。

したがって、既存の「認定医制度指導医」「認定医研修機関」はなくなり、「専門医制度指導医」「専門医研修機関」の名称もなくなり、「指導医」と「研修機関」となりました。

併せて、専門医申請要件について、研修歴についての明確化、申請に必要な業績の緩和を行い、煩雑さを解消しました。研修機関の申請要件についても明確化しました。その他、認定制度に関わる複数の規則について、規則条項および文言を統一しました。

今回の改正は、2019年1月に日本歯科専門医機構に本会が加盟したにあたり、機構の方針および今後の老年歯科専門医の制度基盤のあり方を意識して改正されたものです。

詳しくは学会ホームページにあります、認定制度関連の規則・細則をご確認ください。

なお、摂食機能療法専門歯科医師、認定歯科衛生士(老年歯科)については、本制度で認定している資格ではありません。

ませんので、今回の改正の影響はありません。

会員の皆様におかれましては、新しい認定制度をご理解いただき、認定医、専門医、指導医の申請をぜひよろしくお願いいたします。



表 これまでの資格と改正後の資格の名称照合表

旧名称 (2019.6.4 以前)	新名称 (2019.6.5 以降)
認定医	認定医
認定制度指導医	廃止*
専門医	専門医
専門医制度指導医	指導医
認定医研修機関	廃止*
専門医研修機関	研修機関

*旧名称の認定医制度指導医については、当該歯科医師の希望があれば老年歯科専門医制度規則第4条2項および指導医制度規則第4条2項に従い必要な審査を行い、新制度の指導医資格を認定するものとします。また旧名称の認定研修機関については、指導医資格取得後に研修機関の審査を受けることが可能です。

国際渉外だより

The 1st Taiwan-Japan Geriatric Dentistry Summit & TAGD International Conference, 2019

(第1回日台高齢者歯科サミット・
台湾老年歯科医学会国際大会2019)

堀 一浩 (新潟大), 七田俊晴 (昭和大)

日本老年歯科医学会と台湾老年歯科医学会 (TAGD) の学術交流事業としての第1回日台高齢者歯科サミットが、台湾老年歯科医学会国際大会2019との併催で中国文化大

学 (台北) にて開催されました。

3月23日に行われたサミットでは、TAGDの理事長である鄧 延通先生と本学会国際渉外委員長・小野高裕先生が座長を務め、日本から4題 (古屋純一、鈴木啓之、堀 一浩、七田俊晴)、台湾からは5題の演題が、母国語で口頭発表されました。原田和昭先生 (国際渉外委員会) が日中英3カ国語の通訳として大活躍し、活発な議論が繰り広げられました。サミットの終盤には、台湾歯科医師会会長

(写真上, 右前方)も臨席されました。

翌 24 日は国際大会が開催されました。当学会からは佐藤裕二理事長が「日本の高齢者の現状と超高齢社会におけるインプラント治療」について、TAGD からは鄧 延通理事長が「複雑な全身疾患を持つ高齢者に対する挑戦」について講演をされたほか、日本、台湾、米国、オーストラリアからの招待講演がありました。

懇親会は、1907 (明治 40) 年に台湾総督府の土木局水道課長の公邸として建てられた歴史建築の宴会場 (孫立人將軍官邸) で行われました。台湾厚生事務次官も出席され、祝辞を述べられました。台湾式のアルコール度数が高いお酒での乾杯で大いに盛り上がり、両学会間の関係がさらに深まりました。



写真上：サミットの様子、写真下：集合写真

29th Annual Congress of the European College of Gerodontology (ECG) に参加して

荒川いつか (日歯大新潟病院)

2019 年 5 月 16 日から 17 日の 2 日間、オランダのアムステルダム郊外のアメルスフォールトにて ECG 学術大会が開催されました。

前日の 15 日は「Prosthetic care in older population」と題し、総義歯治療における診断や評価法、今後の需要などをテーマにした講演とグループディスカッションを含む少人数のワークショップが行われました。小野高裕先生(新潟大)、多田紗弥夏先生(シンガポール国立大)による口腔機能評価のセッションでは、日本で使用されている測定装置が動画と併せて紹介され参加者の注目を集めていました。

16・17 日は「Joining forces to improve (oral) health」をメインテーマとして学術大会が行われました。今回は医師、看護師、栄養士など多職種の方々に参加しており、歯科のみならず他分野からも多職種連携の強化を唱える内容が印象的でした。本会からは約 20 名が参加し、JSG セッションでは 8 題の講演 (藤田医科大・松尾浩一郎先生、新潟大・小野高裕先生、広島大・津賀一弘先生、大阪大・村上和裕先生、医科歯科大・駒ヶ嶺友梨子先生、鈴木啓之先生、金澤 学先生) ならびにポスター発表 8 題が行われ、日本老年歯科医学の最先端の内容が発表されました。国外からの口腔機能低下症の保険導入については特に関心が高く、今後の取り組みにも大きな期待が寄せられました。閉会式では、突然、佐藤理事長が立ち上がり、「May the better relationship between ECG & JSG be with us!」と挨拶され、大きな喝

采を受けました。

現在、私はスイスのベルン大学にて客観的評価を用いた口腔機能の共同研究を行っております。この学術大会では非常にフレンドリーな雰囲気のなか、各国の参加者と情報交流やディスカッションを行うことができ研究意欲がさらに刺激されました。また、日本から世界へ今後も継続して情報発信する必要性を強く認識しました。次回は 2020 年 10 月 7～9 日、ギリシャのアテネで開催予定です。



主な関係各位の先生方

IADR 2019 (Vancouver, Canada, 6月19～22日) 報告

1. 小野理事が Keynote Speaker として登壇!

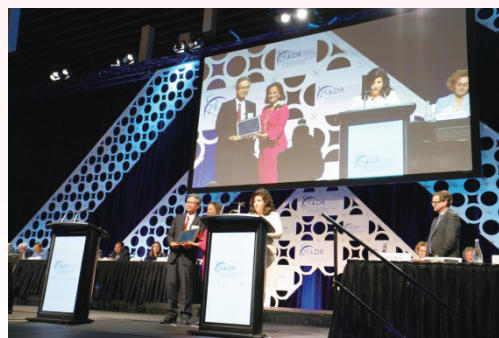
新潟大学の小野高裕先生が、昨年 Geriatric Oral Research 部門の Distinguished Scientist Award を受賞したことから、今年 IADR にて Keynote Speaker として講演を行いました (タイトル「Can quality/quantity of mastication be a key to successful ageing?」)。



講演中の小野先生

2. 水口常任理事が受賞しました!

東京医科歯科大学の水口俊介先生が IADR Distinguished Scientist Award in Geriatric Oral Research を受賞しました。日本人として 4 人目の快挙です! おめでとうございます。



水口先生、おめでとうございます

日本補綴歯科学会学術大会での共催シンポジウムが開催されました！

一般社団法人日本老年歯科医学会理事長 佐藤裕二

ていました。今後、両学会の連携がますます深まっていくことと思われま

5月10～12日に行われました、日本補綴歯科学会第128回学術大会（札幌）において、シンポジウム5「補綴のアウトカムを真剣に考える—口腔栄養関連サービスを多職種で構築するために—」が本学会との共催で12日に開催されました。座長を窪木拓男先生（岡山大）と私が務め、本学会から菊谷武先生（日歯大）、医師として吉村芳弘先生（熊本リハビリテーション病院）、管理栄養士として本川佳子先生（東京都健康長寿医療センター）がそれぞれの立場から、口腔栄養関連サービスを構築するための具体的な連携方策について熱く議論されました。

日本補綴歯科学会もこのところ「栄養」に力を入れており、また、口腔機能低下症の検査にも注目されています。シンポジウム3「認知症の現状、補綴歯科治療と今後の研究展開」、臨床スキルアップセミナー2「高齢者における口腔リハビリテーションと補綴歯科治療」、ハンズオンセミナー2「口腔機能検査の活用」、市民フォーラム「飲み込み障害を予防して美味しく食べよう」などの本学会に関連した多くの企画で、本学会会員も発表し



シンポジウム5「補綴のアウトカムを真剣に考える」の講師の先生方を囲んで

委員会だより

支部・地域保健医療福祉委員会

委員長 平野浩彦

支部・地域保健医療福祉委員会では、本学会における事業を全国に効果的に波及させるための活動を行っています。当委員会の重要なミッションの一つは、本学会支部組織の活動を支援することです。現在、各都道府県に支部を置き、それぞれの支部の特色を活かした支部セミナーを展開しており、当委員会は支部セミナーの支援を行っています。昨年度の支部セミナーの開催実績は23回に上り、地域における高齢者歯科医療の普及啓発につながっています。

また、毎年の学術大会開催時には、地域包括ケアや認知症などをテーマに当委員会主催シンポジウムを開催しているほか、支部長の情報共有の場として支部長会を開催しています。第30回学術大会でも、シンポジウム後のアフターミーティングや支部の活動報告を行うなど、支

部長間の情報共有の場になっています。今後も、当委員会が学会と地域の会員との懸け橋となれるように活動に取り組んでいきたいと思



支部長会の様子

研究倫理の啓発⑥～症例報告でも倫理審査は必要なのか～

倫理委員会副委員長 大野友久、委員長 竹島 浩

今後は、ほとんどの学会発表、それに続く論文発表においては基本的に倫理審査が必要であり、一部に例外がある、という認識でいるべきでしょう。

症例報告は実際の患者さんでの臨床経験を基に発表するため、臨床家にとって最も身近な発表形式でしょう。前回の「研究倫理の啓発⑤」あるいは倫理審査委員会からの「臨床研究に関する倫理審査について」にも記載されていたとおり、今後は症例報告でも倫理審査が必要な場合があります。ポイントは「通常診療の範囲内かどうか」です。その発表のために普段とは異なる診療行為を行う、たとえば追加で検査する、追加で試料を採取するなどを行うと、倫理審査が必要になります。線引きが難しいかもしれませんが、本学会ホームページ内に「臨床研究に関する倫理審査について」のフローチャートがありますので、ご自身の症例報告が倫理審査を必要とするかどうか確認してみてください。

<http://www.gerodontology.jp/committee/001606.shtml>

判断が難しい場合は学会事務局までご相談ください。

- ・ 症例報告でも倫理審査を必要とする場合がある
- ・ 判断基準は「通常診療の範囲内かどうか」である
- ・ 人を対象とする医学研究の学会発表、論文発表は基本的に倫理審査が必要
- ・ 来年の第31回学術大会（2020年）から必須

支 部 だ よ り

神奈川支部・山梨支部合同セミナー開催報告

神奈川支部 玉置勝司

日本口腔検査学会・日本老年歯科医学会神奈川支部・山梨支部合同セミナーが下記のように開催されました。今回、神奈川支部・山梨支部合同セミナーにさらに日本口腔検査学会との共催でセミナーが開催され、両学会から積極的な意見交換が行われ、充実した合同セミナーとなり、第2回合同セミナーが期待されます。

タイトル: 歯科発！生活習慣病・フレイル予防、改善のアプローチを考える

日 時: 2019年4月21日(日)10時~16時30分

場 所: 神奈川歯科大学附属病院大会議室12F(横須賀)

参加者: 100名(日本老年歯科医学会12名, 日本口腔検査学会11名, 非会員24名, 学内関係5名, 展示企業関係者17名, その他)



たくさんの先生方にご登壇いただきました

北海道支部主催セミナー 「第18回北海道口腔ケアセミナー」開催報告

北海道支部 山崎 裕

2019年5月25日(土)北海道自治労会館にて、「第18回北海道口腔ケアセミナー」が開催されました(参加者205名)。

佐々木 淳先生(悠翔会 理事長)に「在宅医療における『食』のありがた」と題し、今までの医療の常識にとらわれることなく、高齢者に対しては生活の質を第一に考えた対応が重要であることをご講演いただきました。その後、帯広の秀和会つがやす歯科医院に勤務されている歯科衛生士、看

護師、管理栄養士の3人の先生に、地域連携の取り組みについてご講演いただきました。活発な討議がなされ、大変有意義なセミナーになりました。



白熱した講演会の様子

奈良支部共同開催セミナー 「第6回在宅療養支援歯科診療所の 施設基準講習会」開催報告

奈良支部 小向井英記

2019年6月2日(日)奈良県歯科医師会館にて、奈良県歯科医師会・歯科衛生士会との共催講習会を開催いたしました(参加歯科医師数59名・歯科衛生士数54名)。当日は「ミールラウンドで使える！認知症高齢者の食支援」をテーマに、野原幹司先生(大阪大・高次脳口腔機能学講座准教授)に、先生の経験された多くの症例も交えながらわかりやすくご講演いただきました。これからの高齢者歯科医療の現場でも多く直面する認知症症例の対応、特に食支援について理解することができ、有意義なセミナーとなりました。



野原先生にわかりやすくご講演いただきました

学 会 だ よ り

九州地域支部セミナー 「第3回九州老年歯科フォーラム」のご案内

日 時: 2019年8月4日(日) 9:00~16:30

会 場: 長崎県歯科医師会館

★詳細は学会ホームページでご確認ください。

第32回学術大会のご案内

日 時: 2021年6月11日(金)~13日(日)

会 場: 名古屋国際会議場

大会長: 河相安彦(日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座)

★皆様のご参加をお待ちしております。



編集後記

本号は、日本老年歯科医学会第30回学術大会の報告とシンポジウムの演者の先生方、本学術大会で受賞された先生方のお写真を掲載いたしました。受賞された皆様、おめでとうございます。また、ニュースレターの今後の方向性や内容等に関するアンケートにご協力をいただいた皆様に御礼申し上げます。(伊藤誠康)

発行人 佐藤裕二

編 集 (一社)日本老年歯科医学会広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

駒込TSビル (一財)口腔保健協会内

電 話 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341

E-mail gakkai30@kokuhoken.or.jp

